



□ テーマ (臓器・疾病・治療法など、以下のレポートで取り上げること)

拡張型心筋症

□ レポート 自分で書き留めたメモを参考にしながら、レポートを完成させましょう。

- ①文字だけでなく、必ず臓器等のスケッチや図表等を1つ以上入れること。
- ②必ずタイトル・小見出しを付けること。<付け方: 1 (1) ①の順番で>

1. 心臓について

(1) 心臓の大きさや働き

200g ~ 300g (成人)、握りこぶしよりやや大きく、重さはリンゴ約1個分。  
1回の収縮で約60mlの血液が全身に送り出される。1分間に60~80回収縮する。これによって送り出された血液はすべて全身の臓器に伝わり、それぞれ臓器が酸素や栄養分を受け取る。  
血液は動脈 → 細動脈 → 毛細血管(極めて細い 太さ約0.01mm)の順に流れていく。

(2) 心臓病とは

心臓の構造や機能を異常が生じる病気の総称。  
例) 虚血性心疾患(狭心症, 心筋梗塞), 心臓弁膜症, 不整脈, 心筋症, 心不全など。

2. 心筋症について

心筋症とは... 心臓の筋肉の異常によって心臓機能が低下する疾患の総称。  
進行するにつれ、「息切れ、動悸、胸痛」「足のむくみ」「不整脈」「疲労」「胸痛」「呼吸困難」さらに進行すると、「突然死」などをもたらす重い病気

- (1) 肥大型心筋症 ← 心室の壁が異常に厚くなる病気
- (2) 拘束型心筋症 ← 心室の壁が硬くなり、心臓の拡張を妨げる病気
- (3) 拡張型心筋症 ← 心室の筋肉が薄くなり、心臓が膨らむ病気  
*extensive cardiomyopathy* 原因不明(何らかのウイルス感染症や遺伝的影響と

考えられている)

① 治療法

- ・薬物治療
- ・不整脈治療  
↳ ICD(植込み型除細動器)の利用や  
カテーテルアブレーション治療(カテーテルの使用)など
- ・心臓再同期療法(CRT)  
↳ ペーサーカにより、電気信号のタイミングを整え(再同期という)、心臓のポンプ機能の改善をはかる
- ・外科治療



<拡張型心筋症  
53才男性  
標本番号 MM3559  
(A91-098)>

治療の進歩により、5年生生存率(ある患者が診断から5年後に生きている割合)は5割だったのが7~8割程度になった

□ 考察 見た・調べた結果(事実)から、物事を明らかにするために自分で深く考える

実際に拡張型心筋症の標本と正常な心臓の標本を見比べたとき、一目見ただけで大きさの違いがはっきり分り、恐ろしさを感じた。このような心臓病(生活習慣病)に悩むためには、禁煙やバランスのとれた食事、適度な運動、適切な睡眠などの生活習慣を気をつけることを最優先すべきだとあらためて感じた。  
また、生活習慣を自分から変えることは難しいことだと99%で、周囲の声かけなどが大事だと感じた。生活習慣病の患者を減らすために、1人1人が互いに助け合いが必要があると、強く感じた。

□ 感想 ① 森谷館長の講話から心に響いたことを書きなさい。

これから自分が立派な医師となるまでの将来図をみて、これからのことを、より詳しく分かりました。大学4年生までに医学の全てを学び、5年生からは実際に白衣を着て医療行為を行っていくと聞き、自分の7年後を考えると其の意義や希望もありました。不安の方が大きかったです。また、専門医までの道のりは長く、1つ1つ今できることをしっかりとこなしていく必要があると、あらためて感じました。

② MM 研修を通しての気づき及び今後の抱負

(医学を学ぶ上で高校1年次にどのような学習をしておかなければならないかという観点から)

MM 研修の感想を率直に言うと、「楽しかった」です。あらためて、私は医学に興味があるんだなと感じました。これからのその思いを忘れずに「79-ロード」や大学で医学を学んでいきたいと思っています。また、高校1年生の今は今できることをしっかりとやらなければならないことをしっかりとクリアしていき、これからの人生の土台づくりを努めたいと思います。

□ テーマ (臓器・疾病・治療法など、以下のレポートで取り上げること)

多発性脳梗塞について

□ レポート 自分で書き留めたメモを参考にしながら、レポートを完成させましょう。

- ①文字だけでなく、必ず臓器等のスケッチや図表等を1つ以上入れること。
- ②必ずタイトル・小見出しを付けること。<付け方: 1 (1) ①の順番で>

(3) 脳梗塞の治療や予防

□ 考察 見た・調べた結果(事実)から、物事を明らかにするために自分で深く考える

日本における脳梗塞は毎年50万人が発症するとされ、日本人の死亡原因の中で高い順位にある高頻度の疾患である。また、後遺症を残したリ、寝たきりの原因となっているため、治療費は日本の年間医療費の約1割を占めている。そのため、遺伝以外の脳梗塞発症の原因は規則正しい生活と禁煙・減塩・減量に努め、発症をできるだけ予防することが大事だと感じた。からだの全体をコントロールしている一番大事な臓器で血がたまったリしてしまつと、やはり障害や後遺症が残るということも改めて感じた。そのため、一定の期間で検診して、それによって早期発見をすることが大事だと思った。

□ 感想 ① 森谷館長の講話から心に響いたことを書きなさい。

同世代や先輩方、後輩と仲良く、コミュニケーションをとり、社会に出て医師になる際に患者さんに対して適切な対応をする。色々な世代の患者さん一人一人に目線を合わせ、身近にかつ、その患者さんの立場に寄り添って考え、寄り添う医療をするために、今からでも鍛えていかなければいけないと思った。医療者は、完璧な医学知識、人間性、経験から成り立っているものである。人間をつくる。という一文を川崎先生が建学の理念に入れたことを知った。

② MM 研修を通しての気づき及び今後の抱負

(医学を学ぶ上で高校1年次にどのような学習をしておかなければならないかという観点から)

私にはまだ医学の道のスタート地点に立ち、たに頑張りたい。高校1年から苦学意識のある英語や数学の基礎から学び、定着させて、応用問題でも解けるようにしたい。また、体中の臓器を初めて、身体から取り出された状態で間近で観察しても興味深く感じた。これらの医師になるためには、必要な勉強は、高校1年生から勉強し、積み重ねていくことがとても大切だと思う。

1. 脳とは

頭蓋骨の中にある層の骨髄液で保護されている脳には無数の神経細胞があり、大脳、小脳、脳幹から構成されている。生命維持、運動、感覚、知覚、活動など、人のからだの全体をコントロールしている。

2. 多発性脳梗塞とは

脳内の複数の部位で血液供給が不足し、脳組織が損傷すること。脳梗塞の一種であり、特に脳梗塞が多発した際にこの名称が使われる。これは通常、心臓や動脈からの血栓が原因で発生し、特に心臓の動脈硬化や動脈硬化が関与することが多い。

(1) 多発性脳梗塞の主な原因

- ① 心原性塞栓症: 心臓から生じた血栓が脳血管に移動し、脳梗塞を引き起こす。
- ② 動脈硬化: 動脈壁の脂肪、コレステロールの蓄積により、血管が狭くなり、血液が滞りやすくなる。
- ③ 大動脈弓病変: 大動脈の下部が病変が生じ、これが原因で血栓が形成される。
- ④ COVID-19 関連凝固障害: 長期間にわたって、血栓形成のリスクを高める。新型コロナウイルス。
- ⑤ 生活習慣: 生活習慣病は動脈硬化や血栓形成のリスクを高める。
- ⑥ 遺伝・家族歴: 脳梗塞がある場合、リスクが高まることがある。

※健康であっても、夏は脱水による体内の水分不足により、脳梗塞になりやすい。

(2) 多発性脳梗塞の主な症状や後遺症

- ① 認知機能障害
- ② 運動機能障害
- ③ 言語障害
- ④ 嚥下障害
- ⑤ 感覚障害
- ⑥ 精神・行動の変化